



114
A2625



第一章 總則
第一款 町村及其區域

第二款 町村屬民及其權利義務

第三款 町村條例

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第三章 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織選任

第二款 町村吏員ノ職務權限

第三款 給料及退隱料

第四章 町村財產ノ管理

大正十一年
六月

第一款 町村^有財產及町村稅
第二款 町村ノ歲入出豫算及決算
第五章 町村內各部落ノ行政
第六章 町村組合
第七章 町村行政ノ監督
第八章 附則

町村制

第一章 總則

第一款 町村及其區域

第一條 此法律ハ東京京都大坂及市制ヲ施行スル地ヲ除キ總テ町村ニ施行スルモノトス

第二條 町村ハ法律上一個人ト均ク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ凡町村公共ノ事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ自ラ之ヲ處理スルモノトス

第三條 凡町村ハ從來ノ區域ヲ存シテ之ヲ變更セス但將來其變更ヲ要スルコトアルトキハ此法律ニ準據ス可シ

第四條 町村ノ廢置分合ヲ要スルトキハ關係アル市町村會及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣參事會之ヲ議決シ內務大臣ノ許可ヲ受ク可シ
町村境界ノ變更ヲ要スルトキハ關係アル町村會及地主ノ意見ヲ聞キ郡參事會之ヲ議決ス其數郡ニ涉リ若クハ市ノ境界ヲ變更スルモ

ノハ府縣參事會之ヲ議決ス

町村ノ資力法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪ヘス又ハ其他總テ公益上ノ必要アルトキハ關係者ノ異議ニ拘ハラズ町村ヲ合併シ又ハ其境界ヲ變更スルコトアル可シ

本條ノ處分ニ付其町村ノ財産處分ヲ要スルトキハ併セテ之ヲ議決ス可シ

第五條 町村ノ境界ニ關スル爭論ハ郡參事會之ヲ裁決ス其數郡ニ涉ルモノハ府縣參事會之ヲ裁決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二款 町村屬民及其權利義務

第六條 凡町村内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ其町村屬民トス

凡町村屬民タル者ハ此法律ニ從ヒ公同ノ營造物并町村財産ヲ共用

スルノ權利ヲ有シ及町村ノ負擔ヲ分任スルノ義務ヲ有スルモノトス但民法上特別ノ權利及義務アル者ハ此限ニ在ラス

第七條 凡帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子二年以來(一)町村ノ屬民トナリ(二)其町村ノ負擔ヲ分任シ及(三)其町村内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムル者ハ其町村住民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者ハ此限ニ在ラス但場合ニ依リ町村會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムルニケ年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

此法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ケサル者ヲ云フ

第八條 凡町村住民ハ町村ノ選舉ニ參與シ町村ノ名譽職ヲ擔任スルノ權利アリ又其名譽職ヲ擔任スルハ町村住民ノ義務ナリトス左ノ理由アルニ非サレハ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職スルコト

ヲ得ス

- 一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者
- 二 營業ノ爲メニ常ニ其町村内ニ居ルコトヲ得サル者
- 三 年齡滿六十歳以上ノ者
- 四 官職ノ爲メニ町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者
- 五 四年間無給ニシテ町村吏員ノ職ニ任シ爾後四年ヲ經過セサル者及六年間無給ニシテ町村議員ノ職ニ居リ爾後六年ヲ經過セサル者

六 其他町村會ノ議決ニ於テ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ若クハ無任期ノ職務ヲ少クモ三年間擔當セス又ハ其職務ヲ實際ニ執行セサル者ハ町村會ノ議決ヲ以テ三年以上六年以下其町村住民タルノ權ヲ停止シ且同年期間其負擔ス可キ町村費ノ八分一乃至四分一ヲ増課

スルコトヲ得

前項町村會ノ議決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條 町村住民タル者第七條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ其住民タルノ權ヲ失フモノトス

町村住民タル者身代限處分中又ハ公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ裁判上ノ訊問若クハ勾留中又ハ租稅滯納處分ヲ受ケテ猶之ヲ完納セサル間ハ其住民タルノ權ヲ停止ス
陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス
町村住民タル者ニ限リテ任ス可キ職務ニ在ル者本條ノ場合ニ當ルトキハ其職務ヲ解ク可キモノトス

第三款 町村條例

第十條 町村ノ事務及町村屬民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明文ナク又ハ特例ヲ設クルコトヲ許セル事項ハ各町村ニ於テ特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

町村ニ於テハ其町村ノ設置ニ係ル營造物ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得

町村條例及規則ハ法律命令ニ抵觸スルコトヲ得ス且之ヲ發行スルトキハ地方慣行ノ公告式ニ依ル可シ

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第十一條 町村會議員ハ其町村ノ選舉人其被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其定員ハ其町村ノ人口ニ準シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ定ム但町村條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得

- 一 人口千五百未滿ノ町村ニ於テハ 議員八人

- 一 人口千五百以上五千未滿ノ町村ニ於テハ 議員十二人

- 一 人口五千以上壹萬未滿ノ町村ニ於テハ 議員十八人

- 一 人口壹萬以上貳萬未滿ノ町村ニ於テハ 議員廿四人

- 一 人口貳萬以上ノ町村ニ於テハ 議員三十人

第十二條 町村住民(第七條)ハ總テ選舉權ヲ有ス但其住民權ヲ停止セラル、者(第八條第三項第九條第二項)及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス

凡内國人ニシテ公權ヲ有シ直接町村稅ヲ納ムル者其額町村住民ノ最多ク納稅スル者三名中ノ一人ヨリモ多キトキハ第七條ノ要件ニ當ラスト雖モ選舉權ヲ有ス但住民權ヲ停止セラル、者及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス

法律ニ從テ設立シタル會社其他法人ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキモ亦同シ

第十三條 選舉人ハ分テ二級ト爲ス

選舉人中直接町村税ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ半ニ當ル可キ者ヲ一級トシ爾餘ノ選舉人ヲ二級トス

一級二級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ一級ニ入ル可シ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ其町村内ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ一級ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年數ヲ以テシ年數ニモ依リ難キトキハ町村長抽籤ヲ以テ之ヲ定ム可シ
選舉人每級各別ニ議員ノ半數ヲ選舉ス其被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラス兩級ニ通シテ選舉セラル、コトヲ得

第十四條 特別ノ事情アリテ前條ノ例ニ依リ難キ町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ別ニ選舉ノ特例ヲ設クルコトヲ得

第十五條 選舉權ヲ有スル町村住民(第十二條第一項)ハ總テ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ町村會議員タルコトヲ得ス

- 一 所屬府縣郡ノ官吏
- 二 有給ノ現職町村吏員
- 三 檢事及警察官吏
- 四 神官僧侶及其他諸宗教師
- 五 小學教員

其他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

代言人ノ免許ヲ得スシテ他人ノ爲メニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シテ事ヲ辨スルヲ以テ業ト爲ス者ハ議員ニ選舉セラル、コトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス其同時ニ選舉セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ其多キ者一人ヲ當選

トシ若シ同數ナレハ年長者ヲ當選トス其時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後任者議員タルコトヲ得ス

町村長若クハ助役トノ間父子兄弟タルノ縁故アル者ハ之ト同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若シ議員トノ間ニ其縁故アル者町村長若クハ助役ニ選舉セラレ認可ヲ受クルトキハ其縁故アル議員ハ其職ヲ退ク可シ

第十六條 議員ハ名譽職トス其任期ハ六年トシ毎三年各級ニ於テ其半數ヲ改選ス初回ニ於テ解任ス可キ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

退任ノ議員ハ再ヒ選舉セラレ、コトヲ得

第十七條 議員中闕員アルトキハ毎三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フ可シ若シ定員三分ノ一以上闕員アルトキ又ハ町村會町村長若クハ郡長ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖モ其補闕選舉ヲ行フ可シ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改選及補闕選舉トモ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級ニ從テ之カ選舉ヲ行フ可シ

第十八條 町村長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其選舉前六十日ヲ限リ選舉原簿ヲ製シ各選舉人ノ資格ヲ記載シ此原簿ニ據リテ選舉人名簿ヲ製ス可シ

選舉人名簿ハ七日間町村役場ニ於テ之ヲ關係者ノ縦覽ニ供ス可シ若シ關係者ニ於テ訴願セントスルコトアルトキハ同期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ其裁決(第二十七條第一項)ニ依リ名簿ヲ修正ス可キトキハ町村長ハ選舉前十日ヲ限リテ之ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿トナシ之ニ登録セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ニ關スルコトヲ得ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ當選ヲ辭シ若クハ選舉ノ無效トナリ

タル場合ニ於テ更ニ選舉ヲ爲ストキモ亦之ヲ適用ス
 第十九條 選舉ヲ執行スルトキハ町村長ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ及
 選舉ス可キ議員ノ數ヲ各級ニ分チ選舉前七日ヲ限リテ之ヲ公告ス
 可シ
 各級ニ於テ選舉ヲ行フノ順序ハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ
 選舉ヲ行フ可シ

第二十條 選舉掛ハ名譽職トシ町村長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二
 名若クハ四名ヲ選任シ町村長若クハ其代理者ハ其掛長トナリ選舉
 會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス

第二十一條 選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ル
 コトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得
 ス

第二十二條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名ヲ

記シ封緘ノ上選舉人自ラ掛長ニ差出ス可シ但選舉人ノ氏名ハ投票
 ニ記入スルコトヲ得ス
 選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長
 ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入ス可シ但投
 票函ハ投票ヲ終ル迄之ヲ開クコトヲ得ス

第二十三條 投票ニ記載ノ人員其選舉ス可キ定數ニ過キ又ハ不足ア
 ルモ其投票ヲ無効トセス其定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル
 人名ヲ順次ニ棄却ス可シ
 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ
- 二 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
- 三 被選舉權ナキ人名ヲ記載スルモノ
- 四 被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ

投票ノ受理并效力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ專決ス

第二十四條 選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フ可シ他人ニ託シテ投票ヲ差出スコトヲ許サス

第十二條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得若シ其獨立ノ男子ニ非サル者又ハ會社其他法人ニ係ルトキハ必代人ヲ以テス可シ其代人ハ内國人ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示シテ代理ノ證トス可シ

第二十五條 町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ町村會ノ議決ニ依リ區畫ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得但特ニ二級選舉人ノミ此分會ヲ設クルモ妨ケナシ
分會ノ選舉掛ハ町村長ノ選任シタル代理者ヲ以テ其長トシ第二十

條ノ例ニ依リ掛員二名若クハ四名ヲ選任ス

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集メテ之ヲ合算シ總數ヲ以テ當選ヲ定ム

選舉分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開ク可シ其他選舉ノ手續會場ノ取締等總テ本會ノ例ニ依ル

第二十六條 議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取り同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ(第十七條)投票數ノ最多キ者ヲ以テ殘任期ノ最長キ前任者ノ補闕ト爲シ其數相同キトキハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ム

第二十七條 選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ願末ヲ記録シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉人名簿其他關係書類ヲ合綴シテ之ニ署名

ス可シ

投票ハ之ヲ選舉録ニ附屬シ選舉ヲ結了スルニ至ル迄之ヲ保存ス可シ

十六

第二十八條 選舉ヲ終リタル後選舉掛長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知ス可シ其當選ヲ辭セントスル者ハ五日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ

一人ニシテ兩級ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内何レノ選舉ニ應ス可キコトヲ申立ツ可シ其期限内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其選舉ヲ辭スル者トナシ第八條ノ處分ヲ爲ス可シ

第二十九條 選舉人選舉ノ效力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得(第三十七條第一項)

町村長ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ郡長ニ報告シ郡長ハ選舉ノ效力ニ

關スル異議アリテ重要ノ理由アリト認ムルニ於テハ訴願ノ有無ニ拘ラス郡參事會ニ付シテ處分ヲ行フコトヲ得

選舉ノ定規ニ違背スルコトアルトキハ其選舉ヲ取消シ又被選舉人中法律上ノ資格ヲ有セサル者アルトキハ其合格セサル被選舉人ノ當選ヲ取消シ更ニ其選舉ヲ行ハシム可シ

第三十條 當選者其資格ノ要件ヲ有セサルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フトキハ其人ノ選舉ハ效力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ町村會之ヲ議決ス

第三十一條 小町村ニ於テハ郡參事會ノ議決ヲ經町村條例ノ規定ニ依リ町村會ヲ設ケス選舉權ヲ有スル町村住民ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二款 職務權限及處務規程

第三十二條 町村會ハ其町村ヲ代表シ此法律ニ準據シテ町村一切ノ

十七

事務并ニ従前特ニ委任セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ委任セラレ、事務ヲ協議議決スルモノトス

第三十三條 町村會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如シ

一 町村條例及規則ヲ設ケ并改正スル事(第十條)

二 町村費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第六十八條ニ掲クル事務ハ此限ニ在ラス

三 歳入出豫算ヲ定メ豫算外ノ支出及豫算超過ノ支出ヲ認定スル事

四 決算報告ヲ認定スル事

五 法律ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、町村税及夫役現品ノ賦課徴收ノ法ヲ定ムル事

六 町村有不動産ノ賣買交換讓渡并質入書入ヲ爲ス事

七 基本財産ノ處分ニ關スル事(第八十條)

八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲

シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

九 町村有ノ財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

十 町村吏員ノ身元保證金ヲ徴シ并其金額ヲ定ムル事

十一 町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

第三十四條 町村會ハ法律ニ依リ其職權ニ屬スル町村吏員ノ選舉ヲ行フ可シ

第三十五條 町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類計算書ヲ檢閲シ町村長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行并收入支出ノ正否ヲ監査スルノ職權ヲ有ス

町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ差出スコトヲ得

第三十六條 町村會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ

第三十七條 町村屬民及住民タル權利ノ有無、選舉權及被選舉權ノ

有無、選舉人名簿ノ正否并其等級ノ當否、代理ヲ以テ執行スル選舉權(第十二條第二項)及町村會議員選舉ノ效力(第二十九條)ニ關スル訴願ハ町村會之ヲ裁決ス

前項ノ訴願中町村屬民及住民タル權利ノ有無并選舉權ノ有無ニ關スルモノハ町村會ノ設ケナキ町村ニ於テハ町村長之ヲ裁決ス

町村會若クハ町村長ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ爲スコトヲ得其訴願及訴訟ノ爲メニ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス但確定判決アルニ非サレハ更ニ選舉ヲ爲スコトヲ得ス

第三十八條 凡議員タル者ハ選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可キモノニ非ス

第三十九條 町村會ハ町村長ヲ以テ其議長トス若シ町村長故障アル

トキハ其代理タル町村助役ヲ以テ之ニ充ツ

第四十條 會議ノ事件議長及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關ス

ル事アルトキハ議長ニ故障アルモノトシテ其代理者之ニ代ル可シ

議長代理者共ニ故障アルトキハ町村會ハ年長ノ議員ヲ以テ議長ト爲ス可シ

第四十一條 町村長及助役ハ會議ニ列席シテ議事ヲ辨明スルコトヲ得

第四十二條 町村會ハ會議ノ必要アルニ議長之ヲ招集ス若シ總

議員四分ノ一以上ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集ス可シ其招集并

會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外少クモ開議

ノ三日前タル可シ但町村會ノ議決ヲ以テ豫メ會議日ヲ定ムルモ妨ケナシ

第四十三條 町村會ハ公選議員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議決スルコトヲ得ス但同一ノ議事ニ付招集再回ニ至ルモ議員猶三分ノ二ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス

第四十四條 町村會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ再ヒ協議議決ス可シ若シ猶同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十五條 議員ハ何人ニ限ラス自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ就キ町村會ノ協議議決ニ加ハルコトヲ得ス議員ノ數此除名ノ爲メニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ足ラサルトキハ郡參事會町村會ニ代テ議決ス

第四十六條 町村會ニ於テ町村吏員ノ選舉ヲ行フトキハ選舉ス可キ者一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得ル者ニ

名ヲ取リ之ニ就テ更ニ投票セシム若シ最多數ヲ得ル者三名以上同數ナルトキハ議長自ラ抽籤シテ其二名ヲ取リ更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ猶過半數ヲ得ル者ナキトキハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其他ハ第廿二條第廿三條第廿四條第一項ヲ適用ス
前項ノ選舉ニハ町村會ノ議決ヲ以テ指名推選ノ法ヲ用フルコトヲ得

第四十七條 町村會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第四十八條 議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及選舉ノ事ヲ總理シ開會閉會并延會ヲ命シ議場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聽者ノ公然贊成又ハ擯斥ヲ表シ又ハ喧擾ヲ起ス者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第四十九條 町村會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シテ其議決及選舉ノ願

未並出席議員ノ氏名ヲ記録セシム可シ議事録ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員二名以上之ニ署名ス可シ

町村會ノ書記ハ議長之ヲ選任ス

第五十條 町村會ハ其會議細則ヲ設ク可シ其細則ニ違背シタル議員ニ科ス可キ過怠金二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五十一條 第三十二條ヨリ第四十九條ニ至ルノ規定ハ之ヲ町村總會ニ適用ス

第三章 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織選任

第五十二條 町村ニ町村長及町村助役各一名ヲ置ク可シ但町村條例ヲ以テ助役ノ定員ヲ増加スルコトヲ得

第五十三條 町村長及助役ハ町村會ニ於テ其町村住民中年齡滿三十歲以上ニシテ選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス但第五十六條ノ有

給町村長及有給助役ハ此限ニ在ラス

町村長及助役ハ第十五條第二項ノ第一乃至第五ニ掲載スル職ヲ兼ヌルコトヲ得ス

父子兄弟タルノ縁故アル者ハ同時ニ町村長及助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス若シ其縁故アル者助役ノ選舉ニ當ルトキハ其當選ヲ取消シ其町村長ノ選舉ニ當リテ認可ヲ得ルトキハ之ニ縁故アル助役ハ其職ヲ退ク可シ

第五十四條 町村長及助役ノ任期ハ四年トス

町村長及助役ノ選舉ハ第四十六條ニ依テ行フ可シ但投票同數ナルトキハ抽籤ノ法ニ依ラス郡參事會之ヲ決ス可シ

第五十五條 町村長及助役ハ名譽職トス但第五十六條ノ有給町村長及有給助役ハ此限ニ在ラス
町村長ハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外手當トシテ勤務ニ

相當スル報酬ヲ受クルコトヲ得助役ノ行政事務ノ一部ヲ分掌スル
場合(第六十九條第二項)ニ於テモ亦同シ

第五十六條 人口三千以上ノ町村ニ於テハ町村長ノ選舉ニ當ル者之
ニ應スルハ其意ニ任ス可シ又町村會ノ議決ヲ以テ町村長ニ給料ヲ
給スルコトヲ得其五千以上ノ町村ニ於テハ總テ町村長ニ給料ヲ給
ス其他總テ大ナル町村ニ於テハ町村條例ノ規定ヲ以テ助役一名ヲ
有給吏員ト爲スコトヲ得

有給町村長及有給助役ハ其町村住民タル者ニ限ラス但當選ニ應シ
認可ヲ得ルトキハ其住民タルノ權ヲ得

內務大臣ハ省令ヲ以テ有給町村長及有給助役タル可キ者ノ資格ノ
要件ヲ定ムルコトヲ得

第五十七條 有給町村長及有給助役ノ任期ハ六年トス又町村會ノ議
決ヲ以テ六年以上十二年以下適宜其任期ヲ定ムルコトヲ得

有給町村長及有給助役ハ三ヶ月前ニ申立ツルトキハ隨時退職ヲ求
ムルコトヲ得此場合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス
第五十八條 有給町村長及有給助役ハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ
株式會社ノ社長及監察役員トナルコトヲ得ス其他ノ營業ハ郡長ノ
認許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十九條 町村長及助役ノ選舉ハ人口五千未滿ノ町村ニ於テハ郡
長ノ認可人口五千以上一萬未滿ノ町村ニ於テハ府縣知事ノ認可
人口一萬以上ノ町村ニ於テハ內務大臣ノ認可ヲ受ルヲ要ス

第六十條 郡長ニ於テ前條ノ認可ヲ與ヘサルニハ郡參事會ノ同意ヲ
得ルヲ要ス若シ郡參事會之ニ同意セサルトキハ郡長ノ具申ニ依リ
府縣參事會之ニ同意スルニ於テハ其認可ヲ與ヘサルコトヲ得
府縣知事前條ノ認可ヲ與ヘサルニハ府縣參事會ノ同意ヲ得ルヲ要
ス若シ府縣參事會同意セサルトキハ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大

臣ノ許可ヲ受ケテ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得
郡長郡參事會ノ同意ヲ得テ認可ヲ與ヘサルトキハ町村長又ハ町村
會ノ具申ニ依リ府縣知事代テ之ヲ認可スルコトヲ得

府縣知事府縣參事會ノ同意ヲ得テ認可ヲ與ヘサルトキハ町村長又
ハ町村會ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ認可スルコトヲ得

第六十一條 町村長及助役ノ選舉其認可ヲ得サルトキハ更ニ再選舉
ヲ爲ス可シ

再選舉ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ追テ選舉ヲ行ヒ認可ヲ得ル
ニ至ルノ間認可ノ權アル監督官廳(第五十九條)ハ臨時ニ代理者ヲ
選任シ又ハ町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ町村長及助役ノ職務ヲ管掌
セシム可シ

第六十二條 町村ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ町村長ノ推薦ニ依リ
町村會之ヲ選任ス

收入役ハ郡長ノ指定スル町村ニ於テハ有給吏員ト爲ス可シ其他ノ
町村ニ於テハ便宜有給吏員ト爲スコトヲ得

有給收入役ハ町村長助役及町村會議員ヲ兼ヌルコトヲ得ス其選舉
ハ郡長ノ認可ヲ受クルヲ要ス其他第五十六條第二項第三項第五
十七條第一項第五十八條第六十條第六十一條第七十五條第七
十六條第一項第三項第七十七條第七十八條及第七十九條ノ例ヲ
適用ス

收入支出ノ寡少ナル町村ニ於テハ郡長ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助
役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第六十三條 町村ニ書記其他必要ノ附屬員并使丁ヲ置キ相當ノ給料
ヲ給ス其人員ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム但町村長ニ相當ノ役
場費ヲ給與シテ書記ノ事務ヲ委任スルコトヲ得

町村附屬員ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任シ使丁ハ町村長

之ヲ任用ス

第六十四條 町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ處務便宜ノ爲メ町村會ノ議決ニ依リ之ヲ數區ニ分テ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得區長及代理者ハ名譽職トス

區長及代理者ハ町村會ニ於テ其町村ノ住民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス區會(第百十三條)ヲ設クル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選舉ス

第六十五條 町村ハ町村會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置ク

コトヲ得其委員ハ名譽職トス

委員ハ町村會ニ於テ町村會議員又ハ町村住民中選舉權ヲ有スル者ヨリ選舉シ町村長又ハ其委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ委員長トス

常設委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十六條 町村吏員ハ任期滿限ノ後再選セラレ、コトヲ得

町村吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ外隨時解職スルコトヲ得

第二款 町村吏員ノ職務權限

第六十七條 町村長ハ其町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 町村會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ町村會ノ議決其權限ヲ越エ法律ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ再ヒ之ヲ協議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ郡參事會ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

- 二 町村ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事
- 三 町村ノ歳入ヲ管理シ歳入出豫算表其他町村會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事
- 四 町村有ノ財産ヲ管理シ町村ノ權利ヲ保護スル事
- 五 町村吏員及使丁ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フ事懲戒ノ處分ハ譴責及五圓以下ノ科料トス
- 六 町村ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事
- 七 外部ニ對シテ町村ヲ代表シ町村ノ名義ヲ以テ其訴訟並和解ニ關シ又ハ他廳若クハ人民ト商議スル事
- 八 法律ニ依リ又ハ町村會ノ議決ニ從テ使用料、手数料、町村税及夫役現品ヲ賦課シ及ヒ徵收スル事
- 九 其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ町村長ニ委任シタル事

務ヲ處理スル事

第六十八條 町村長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス

- 一 司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラス
 - 二 浦役場ノ事務
 - 三 國ノ行政並府縣郡ノ行政ニシテ町村ニ屬スル事務但別ニ吏員ヲ設ケアルトキハ此限ニ在ラス
- 右三項中ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得
- 本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルカ爲メニ要スル費用ハ町村ノ負擔トス

第六十九條 町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

町村長ハ町村會ノ同意ヲ得テ助役ヲシテ町村行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス可シ

第七十條 町村收入役ハ町村ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

第七十一條 書記ハ町村長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス

第七十二條 區長及代理者ハ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助執行スルモノトス

第七十三條 委員(第六十五條)ハ町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ヲ管理シ若シクハ監督シ又ハ一時ノ委任ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス

委員長ハ委員ノ議決ニ加ハルノ權ヲ有ス若シ助役ヲ以テ委員長ト

爲ス場合ニ於テモ町村長ハ隨時委員會ニ出席シテ其委員長ト爲リ并ニ其議決ニ加ハルノ權ヲ有ス
常設委員ノ職務權限ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルヲ得

第三款 給料及退職料

第七十四條 名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ爲メニ要スル實費ノ辨償ニ限リ給與ヲ受クルコトヲ得

實費辨償額及法律ニ依リ給與スル報酬額并役場費ノ額(第六十三條第一項)ハ町村會之ヲ議決ス

第七十五條 有給町村長及有給助役ノ給料額其他有給吏員及使丁ノ給料額ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

町村會ノ議決ヲ以テ町村長及助役ノ給料ヲ定ムルトキハ郡長ノ許可ヲ受クルヲ要ス郡長ニ於テ之ヲ許可ス可カラスト認ムルトキハ

郡參事會ノ議決ニ付シテ之ヲ確定ス
內務大臣ハ省令ヲ以テ町村長及助役ノ給料額ヲ定メテ一般ノ標準
ヲ設ク可シ但特別ノ事情アリテ此標準ニ據リ難キトキハ特ニ內務
大臣ノ許可ヲ求ムルコトヲ得

第七十六條 前條ニ掲載スル吏員ノ退隱料ハ豫メ監督官廳ノ認許ヲ
經タル規約ニ準據ス可シ若シ規約ナキトキハ左ノ規定ニ依ル
有給町村長及有給助役ニシテ任期滿限後再ヒ選舉ヲ受ケス若クハ
再ヒ認可ヲ受ケス及任期中自ラ招カサル事故ニ依リ其身行務ニ堪
ヘサルカ爲メ退職スルトキハ左ノ割合ニ依リ退隱料ヲ給ス
一 六年就職ノ者ハ 退職當時給料ノ六分ノ一
二 十二年就職ノ者ハ 同 四分ノ一
三 二十四年就職ノ者ハ 同 三分ノ一
隨時解職スルヲ得ス且定任期ナキ有給吏員ニシテ自ラ招カサル事

故ニ依リ其身行務ニ堪ヘサルカ爲メ退職スルトキハ官吏恩給令ノ
例ニ倣ヒ退隱料ヲ給ス

第七十七條 有給吏員ノ給料退隱料其他第七十四條ニ定ムル給與ニ
關シテ異議アルトキハ關係者ノ申立ニ依リ郡參事會之ヲ裁決ス其
郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會
ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十八條 退隱料ヲ受クル者官職又ハ府縣都市町村及公共組合ノ
職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其間之ヲ停止シ又ハ更ニ退隱料ヲ
受クルノ權ヲ得ルトキ其額舊退隱料ト同額以上ナルトキハ舊退隱
料ハ之ヲ廢止ス

第七十九條 有給吏員ノ給料退隱料及此法律ニ依テ支給スル報酬并
辨償等ハ總テ町村ノ負擔トス

第四章 町村財産ノ管理

第一款 町村財産及町村税

第八十條 町村ハ不動産、積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ

臨時ニ收入シタル資金ハ基本財産ニ加入ス可シ但寄附金等寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

第八十一條 凡町村財産ハ全町村ノ爲メニ之ヲ管理シ及共用スルモノトス但民法上別段ノ權利ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第八十二條 舊來ノ慣行ニ依リ町村屬民中特ニ其町村ノ共有地ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ町村會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其舊慣ヲ改ムルコトヲ得ス(第八十五條)

第八十三條 前條ノ使用權(第八十二條)ヲ得ントスル者アルトキハ町村條例ノ規定ニ依リ使用料若クハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收シテ之ヲ許可スルコトヲ得但民法上特ニ使

用ノ權利ヲ有スルモノハ此限ニ在ラス

第八十四條 使用權ヲ有スル者(第八十二條)ハ其使用ノ多寡ニ準シテ使用物件ニ係ル必要ナル費用ヲ分擔ス可キモノトス

第八十五條 町村會ハ町村ノ爲メニ必要ナル場合ニ於テハ使用權(第八十二條)ヲ取上ケ又ハ制限スルコトヲ得但民法上特ニ使用ノ權利ヲ有スルモノハ此限ニ在ラス

第八十六條 町村財産ノ賣却貸與又ハ建築工事及物品調達ノ請負ハ公ケノ入札ニ付ス可シ但臨時急施ヲ要スルトキ及入札ノ價額其費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ認許ヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

第八十七條 町村ハ其必要ナル支出及従前法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ賦課セラル、支出ヲ負擔スルノ義務アリ
町村ハ其財産ヨリ生スル收入及使用料、手数料(第八十八條)并過

忘金^{其他}法律ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ猶不足アルトキハ町村税(第八十九條)及夫役現品(第百條)ヲ賦課徴收スルコトヲ得

第八十八條 町村ハ其所有物及營造物ノ使用又ハ特ニ數個人ノ爲メニスル事業ニ付使用料又ハ手數料ヲ徴收スルコトヲ得

第八十九條 町村税トシテ賦課スルヲ得可キ目左ノ如シ

- 一 國稅府縣稅ニ附加スル割増稅
- 二 特別ノ直接又ハ間接町村稅

割増稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ附加シ且均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ヨリ徴收スルヲ常例トス特別町村稅ハ割増稅ノ外別ニ町村限リ稅目ヲ起シテ課稅スルヲ要スルトキ賦課徴收スルモノトス

第九十條 此法律ニ規定セル條項ヲ除クノ外使用料、手數料(第八十八條)特別町村稅(第八十九條第一項二)及此法律施行ノ際現行ノ

町村費ニ關スル細則ハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定ス可シ其條例ニハ料料拾圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

料料ニ處シ及之ヲ徴收スルハ町村長之ヲ掌ル其處分ニ不服アル者ハ令狀交付後十四日以内ニ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十一條 新ニ町村ニ來住スル者及三ヶ月以上町村内ニ滞在スル者ハ其町村稅ヲ納ムルモノトス但三ヶ月以上滞在スル者ノ課稅ハ滞在ノ初ニ遡リ徴收ス可シ

第九十二條 町村内ニ住居ヲ構ヘス又ハ三ヶ月以上滞在スルコトナシト雖モ町村内ニ土地ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲ス者(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ハ其土地營業若クハ其所得ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス

第九十三條 所得稅ニ割増稅ヲ附加シ及町村ニ於テ特別ニ所得稅ヲ

賦課セントスルトキハ納税者ノ町村外ニ於ケル所有地又ハ營業
(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除ス可キ
モノトス

第九十四條 數市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滞在スル者ニ前條ノ町村税
ヲ賦課スルトキハ其所得ヲ各町村ニ平分シ其一部分ニノミ課税ス
可シ但土地又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ此限ニ在ラス

第九十五條 左ニ掲クル所得額ハ町村税ヲ免除ス

一 軍人ノ給料其他職務上ノ所得并遷^恩給^給其寡婦孤兒扶助料ノ全
額

二 官職又ハ府縣郡市町村及公共組合ノ職務ニ任スル者ノ給料其
他職務上ノ所得并退隱料其寡婦孤兒扶助料ノ半額但一時此職
務ニ在ル者ハ此限ニ在ラス

第九十六條 左ニ掲クル物件ハ町村税ヲ免除ス

一 政府府縣郡市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル地
所營造物及家屋

二 社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝、美術及慈善ノ用ニ供ス
ル地所營造物及家屋

三 官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山林又ハ荒蕪地ノ利益ニ係ル事
業ヲ起シ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ其費用ヲ徴收スル
ハ此限ニ在ラス

新開地及開墾地ハ町村條例ニ依リ年月ヲ限リ免税スルコトヲ得

第九十七條 前二條ノ外町村税ヲ免除ス可キモノハ別段ノ法律ニ定
ムル所ニ從フ皇族ニ係ル町村税ノ賦課ハ追テ法律ヲ制定スル迄現
今ノ例ニ依ル

第九十八條 町村屬民中數個人ニ於テ專ラ使用スル所ノ營造物アル
トキハ其修築及保存ノ費用ハ之ヲ其關係者ニ賦課ス可シ

町村内ノ一部落ニ於テ専ラ使用スル營造物アルトキハ其部内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地ヲ所有シ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲ爲ス者ニ於テ其修築及保存ノ費用ヲ負擔ス可シ但其一部落ノ所有財産アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツ可シ

第九十九條 町村税ハ納稅義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ免稅理由ノ生シタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徵收ス可シ

會計年度中ニ於テ納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ町村長ニ届出ツ可シ其届出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ從前ノ稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一百條 町村公共ノ事業ヲ起シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スルカ爲メニ夫役及現品ヲ以テ納稅者ニ賦課スルコトヲ得但學藝、美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接町村稅ヲ準率ト爲シ且之

ヲ金額ニ算出シテ賦課ス可シ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又急迫ノ場合ヲ除クノ外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一百一條 町村ニ於テ徵收スル使用料、手数料(第八十八條)町村稅(第八十九條)夫役ニ代フル金額(第一百條)共有物使用料及加入金(第八十三條)并其他町村ノ收入ヲ定期内ニ納メサルトキハ町村長ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收ス可シ其督促ヲ爲スニハ町村條例ノ規定ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

納稅者中無力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限リ納稅延期ヲ許スコトヲ得其他ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵、期滿得免及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル規則ヲ適用ス

第二百二條 地租ニ附加スル割増稅ハ地租ノ納稅者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課スル町村稅ハ其所有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

第二百三條 町村稅ノ賦課ニ對スル訴願ハ賦課令狀ノ交付後三ヶ月以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ此期限ヲ經過スルトキハ其年度内減稅免稅及償還ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノトス

第二百四條 町村稅ノ賦課及町村ノ營造物、町村有ノ財産并其所得ヲ使用スル權利ニ關スル訴願ハ町村長之ヲ裁決ス但民法上ノ權利ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル

者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

第二百五條 町村ニ於テ公債ヲ募集スルハ從前ノ公債元額ヲ償還スル爲メ又ハ已ムヲ得サル支出若クハ町村永久ノ利益トナル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ増加スルトキハ其町村屬民ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限ルモノトス

町村會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ償還ノ初期ハ通例二年以後ニ始マルモノト爲シ年々償還ノ歩合ヲ定メ三十年以内ニ還了ス可シ一定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス一年度内ノ收入ヲ以テ償還ス可キモノトス

第二款 町村ノ歲入出豫算及決算

第二百六條 町村長ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得可キ金額ヲ見積

リ年度前二ヶ月ヲ限り歳入出豫算表ヲ調製ス可シ但町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得

第百七條 豫算表ハ會計年度前町村會ノ議決ヲ取り之ヲ郡長ニ報告シ并地方慣行ノ方式ヲ以テ其要領ヲ公告ス可シ

豫算表ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ其町村事務ノ報告及財産明細簿ヲ提出ス可シ

第百八條 定額豫算外ノ費用又ハ豫算ノ不足アルトキハ町村會ノ認定ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ得

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備費ヲ置キ町村長ハ豫メ町村會ノ認定ヲ受クルヲ要セスシテ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得但豫備費ヲ以テ町村會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第百九條 町村會ニ於テ豫算表ヲ議決シタルトキハ町村長ヨリ其謄寫ヲ以テ之ヲ收入役ニ交付ス可シ其豫算表中監督官廳若クハ參事會ノ許可ヲ受ク可キ事項アルトキハ(第百廿四條ヨリ第百二十六條ニ至ル)先ツ其許可ヲ受ク可シ

收入役ハ町村長(第六十七條第二項第三)又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スヲ得ス又收入役ハ町村長ノ命令ヲ受クルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令第百八條ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第百十條 町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少クモ一回臨時検査ヲ爲ス可シ例月検査ハ町村長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時検査ハ町村長又ハ其代理者ノ外町村會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第百十一條 決算ハ會計年度ノ終ヨリ三ヶ月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出シ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之ヲ町村會ノ認定ニ付ス可シ第六十二條第四項ノ場合ニ於テハ前例ニ依リ町村長ヨリ直ニ之ヲ町村會ニ提出ス可シ其町村會ノ認定ヲ經タルトキハ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告ス可シ

第百十二條 決算報告ヲ爲ストキハ第四十條ノ例ニ準シテ議長又ハ代理者故障アルモノトシ又收入役議員タルトキハ第四十五條ノ例ニ準シテ其協議議決ニ加ハルヲ得ス

第五章 町村内各部落ノ行政

第百十三條 町村内ノ區(第六十四條)又ハ町村内ノ一部落若クハ合併町村(第四條)ニシテ別ニ其區域ヲ存シテ一區ヲ爲スモノ特別ニ財産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限り特ニ其費用(第九十八條)ヲ負擔スルトキハ郡參事會ハ其町村會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ

發行シ財産及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會又ハ區總會ヲ設クルコトヲ得其會議ハ町村會ノ例ヲ適用スルコトヲ得

第百十四條 前條ニ記載スル事務ハ町村ノ行政ニ關スル規則ニ依リ町村長之ヲ管理ス可シ但區ノ出納及會計ノ事務ハ之ヲ分別ス可シ

第六章 町村組合

第百十五條 數町村ノ事務ヲ共同處分スル爲メ其協議ニ依リ監督官應ノ許可ヲ得テ其町村ノ組合ヲ設クルコトヲ得
法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪フ可キ資力ヲ有セサル町村ニシテ他ノ町村ト合併(第四條)スルノ協議整ハス又ハ其事情ニ依リ合併ヲ不便ト爲ストキハ郡參事會ノ議決ヲ以テ數町村ノ組合ヲ設ケシムルコトヲ得

第百十六條 町村組合ヲ設クルノ協議ヲ爲ストキハ(第一百五條第一項)組合會議ノ組織、事務ノ管理方法并其費用ノ支辨方法ヲ併

セテ規定ス可シ

前條第二項ノ場合ニ於テハ其關係町村ノ協議ヲ以テ組合費用ノ分擔法等其他必要ノ事項ヲ規定ス可シ若シ其協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ定ム可シ

第百十七條 町村組合ハ監督官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ解クコトヲ得ス

第七章 町村行政ノ監督

第百十八條 町村行政ノ監督ハ人口五千未滿ノ町村ニ於テハ第一次ニ於テ郡長之ヲ行ヒ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ行フ之ヲ終局トス人口五千以上ノ町村ニ於テハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス但法律ニ指定シタル場合ニ於テ郡參事會及府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトス

第百十九條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡町村ノ行政

ニ關スル郡長若クハ郡參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事若クハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得但第百十八條ニ從ヒ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ヲ以テ終局ト爲ス場合ハ此限ニ在ラス

町村ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二週日以内ニ之ヲ提出シ及其理由ヲ陳辨ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ三週日以内ニ出訴ス可シ
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴

願スルコトヲ得ス

訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アリ又ハ官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ町村ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

第二百十條 監督官廳ハ町村行政ノ法律ニ背戾セス及其事務錯亂滯セサルヤ否ヲ監視ス可シ監督官廳ハ之カ爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ并實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第二百十一條 町村又ハ其組合ニ於テ法律上ノ負擔ヲ屬シ又ハ官廳ノ職權ニ依リテ命令スル所ノ支出ヲ定額豫算ニ載セス又ハ臨時之ヲ承認セス又ハ實行セサルトキハ郡長ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表又ハ其臨時支出額ノ内ニ加ヘシム可シ
町村又ハ其組合ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ

訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二百十二條 凡町村會ニ於テ議決ス可キ事件ヲ議決セサルトキハ郡參事會代テ之ヲ議決ス可シ

第二百十三條 內務大臣ハ町村會ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命シタル場合ニ於テハ同時ニ三ヶ月以内更ニ議員ヲ改選ス可キコトヲ命ス可シ但改選町村會ノ集會スル迄ハ郡參事會町村會ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス

第二百十四條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルヲ要ス

- 一 町村條例ヲ設ケ并改正スル事
- 二 學藝美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ノ物品ヲ賣却讓與シ若クハ大ナル變更ヲ爲ス事

前項第一ノ場合ニ於テ人口壹萬以上ノ町村ニ係ルトキハ勅裁ヲ經テ之ヲ許可ス可シ

第二百五條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルヲ要ス

一 新ニ町村ノ負擔ヲ起シ又ハ新ニ公債ヲ募集シテ負債ヲ増加シ及第百五條第二項ノ例ニ違フモノ但償還期限三年以内ノモノハ此限ニ在ラス

二 特別町村稅并使用料手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

三 地租七分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル割増稅ヲ賦課スル事

四 間接國稅ニ附加スル割増稅ヲ賦課スル事

五 法律ノ規定ニ依リ官廳ヨリ歩合ノ金額ヲ補助スル支出ヲ定ムル事

第二百二十六條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ郡參事會ノ許可ヲ受クルヲ要ス

一 町村ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ并改正スル事

二 基本財産ノ處分ニ關スル事(第八十條)

三 町村有不動産ノ賣却讓與并質入ヲ爲ス事

四 各個人直接ニ使用スル町村有地使用方法ノ變更ヲ爲ス事(第八十五條)

五 各種ノ保證ヲ與フル事

六 法律^{初令ニ依リ}ノ義務ニ非スシテ向五ヶ年以上ニ亘リ新ニ町村屬民ニ負擔ヲ課スル事

七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加セル割増稅ヲ賦課スル事(第八十九條第二項)

八 第九十八條ニ從ヒ數個人又ハ町村内ノ一部落ニ課稅スル事

九 第百條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事

第百二十七條 府縣知事郡長ハ町村長助役委員區長及其他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒ノ處分ハ譴責及科料トス郡長ノ處分ニ係ル科料ハ拾圓以下府縣知事ノ處分ニ係ルモノハ貳拾五圓以下トス

追テ町村吏員ノ懲戒法ヲ設クル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用ス可シ

- 一 町村長ノ懲戒處分(第六十七條第二項第五)ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 二 郡長ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ懲戒處分及其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三 本條第一項ニ掲載スル町村吏員再三職務ニ違ヒ又ハ其情狀重

キモ^{モト}又ハ行狀ヲ亂リ廉耻ヲ失フ者、財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務ヲ執ルニ堪ヘサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其隨時解職スルヲ得可キ者ハ(第六十六條)懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス

總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

四 懲戒裁判ハ郡長其審問ヲ爲シ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命シ并給料ヲ停止スルコトヲ得

第二百二十八條 町村吏員及使丁其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲メ町村ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ郡參事會之ヲ裁決ス此裁決ニ不服アル者ハ訴願シ又ハ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得但其訴訟ノ爲メニ其裁決ヲ停止スルコトヲ得ス

第八章 附則

第二百二十九條 郡參事會、府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡長、府縣參事會ノ職務ハ府縣知事、行政裁判所ノ職務ハ內閣ニ於テ之ヲ行フ可シ

第三百十條 此法律ニ據リ初テ議員ヲ選舉スルニ付町村長及町村會ノ職務并町村條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ郡長又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ

第三百十一條 此法律ハ北海道、沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ施行セス別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第三百十二條 前條ノ外特別ノ事情アル地方ニ於テハ町村會及町村長ノ具申又ハ郡參事會ノ具申ニ依リ勅令ヲ以テ此法律ノ條規ヲ中止スルコトヲ得

第三百十三條 社寺ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セス現行ノ例規及其地ノ習慣ニ從フ

第三百十四條 此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キタル數ヲ云フ

第三百十五條 現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間接稅トス可キ類別ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第三百十六條 此法律ハ 年 月 日以後地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣ノ指揮ヲ以テ之ヲ施行ス可シ

第三百十七條 明治九年十月第三百十號布告各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制

法第六條及第九條但書、明治十七年五月第十四號布告區町村會法、
明治十七年五月第十五號布告、明治十七年七月第二十三號布告明
治十八年八月第二十五號布告并其他此法律ニ抵觸スル成規ハ總テ
之ヲ廢止ス

第三百三十八條 内務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル
命令及訓令ヲ發布ス可シ

